



## 鳥類の宿主免疫応答機構に関する研究

Study on host immune responses in birds

市川健之助

広島大学統合生命科学研究科

食品生命科学プログラム / ゲノム編集先端人材育成プログラム

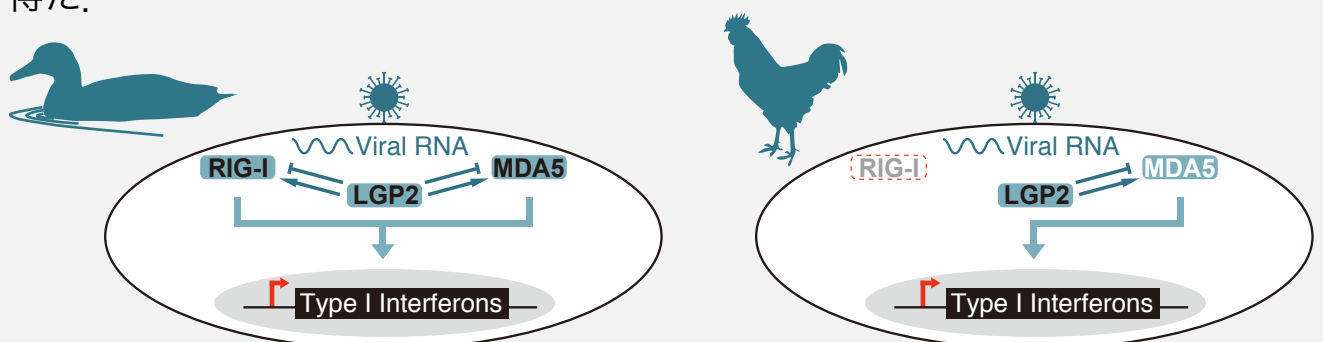
免疫生物学研究室

### 【概要】

ゲノム編集技術の台頭により、近年、生命科学は目覚ましく進展している。私達の重要なタンパク源であるニワトリやその卵においても、基礎・応用研究の双方において、本技術は積極的に活用されている。いわば現在は家禽の遺伝子改変の黎明期である。

家禽を高効率に生産する上で、ウイルス性疾病の制圧は必要不可欠である。特に**高病原性鳥インフルエンザウイルス** (highly pathogenic avian influenza virus; **HPAIV**) は、ニワトリに対して極めて高い致死性を示す他、人獣共通感染症の要因としても重要なウイルスである。我が国では、HPAIVに感染した家禽が確認された際に、その発生源の家禽全てに対して殺処分が敢行されている。そのため、HPAIVの蔓延は養鶏業界に極めて重大な経済的損失をもたらす。したがって、ゲノム編集技術により、抗HPAIV耐性もしくは無感染・無排出を獲得した遺伝子改変ニワトリの作出は、極めて産業的価値の高い課題である。

本遺伝子改変ニワトリを作出するためには、まず、ニワトリの宿主免疫応答機構に関する基礎的な知見が求められる。そこで本研究では、(1) ニワトリ細胞において、**duck RIG-I** を免疫応答依存的に機能させる発現系の確立、および(2) HPAIV応答におけるニワトリMDA5, LGP2の機能解析を行い興味深い結果を得た。



本セミナーは、統合生命科学研究科セミナーとして、プログラム共同セミナーの対象です。

**開催日時: 令和4年2月1日 (火) 14:00 - 15:00**

Microsoft Teams meeting

コンピューターまたはモバイルアプリで参加できます

[会議に参加するにはここをクリックしてください](#)

[詳細情報ヘルプ](#) | [会議のオプション](#)

お問い合わせ先

堀内 浩幸 (内線: 7970)

E-mail: hhor10@